本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成24年度事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、一つひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

平成25年9月
山口情報芸術センター
館長　足立　明男

目　　次

平成24年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2

平成24年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3

［1］アート …… 4

［2］パフォーミングアーツ …… 8

［3］教育普及 …… 12

［4］ラボ …… 16

［5］シネマ …… 17

［6］10周年記念事業プレイベント …… 20

［7］主な貸館事業 …… 21

［8］施設利用状況 …… 21

［9］その他特記事項 …… 21

主な関連新聞記事 …… 22

(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果 …… 35

平成24年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次々頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決算額(円)
施設費	180,800,063

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気･ガス･上下水道の光熱水料費（52,142千円）
②施設全体に係る清掃･空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（80,766千円）です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

科　目	決算額(円)	備　　考	構成比
チケット収入等	10,212,000	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	3.7
助成金収入	18,185,643	文化庁、資生堂等による助成金	6.7
雑収入等	5,173,918	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料等	1.9
補助金収入	238,956,377	山口市からの自主事業実施係る補助金	87.7
合　計	272,527,938		100

*チケット収入は収入全体の3.7%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決算額(円)	備　　考	構成比
人件費	132,439,435	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	48.6
アート	44,054,699	アート企画展等に係る経費	16.1
パフォーミングアーツ	23,373,915	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	8.6
教育普及	15,202,499	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	5.6
ラボ	6,999,524	研究開発事業、研修生受け入れ等に係る経費	2.6
シネマ	13,951,213	シネマ上映等に係る経費	5.1
共通事業費等	36,506,653	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等の共通経費	13.4
合　計	272,527,938		100

平成24年度 山口情報芸術センター事業概要

1　事業の方向性　～地方発信の時代へ ― <場>と<オリジナル>を重視する～

山口情報芸術センター〔YCAM〕は、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現活動を追求する複合的文化施設です。身体表現の場であるシアター［スタジオA］、アート作品を製作･展示できるアートホール［スタジオB］、コンピュータによる作品制作が可能なラボ［InterLab／専任エンジニアが所属］が融合された、世界的にも稀な機能を有した施設です。

YCAMでは、アートの現場に参加する文化体験を通じて、理解発見力、分析力、表現力を伸ばすための、真のコミュニケーションの<場>を創りだすことに挑戦しています。そのために、従来の「展示･保存型」の文化施設ではなく、「この場で考え、コミュニケーションし、共同で作り出そう」という「制作･発信･コラボレーション型」の創造的文化環境づくりを目指しています。その中で新しい発見や共同作業の喜びを体験してもらうことを期待しています。

YCAMの事業は、<アート><パフォーミングアーツ><教育普及>を3つの柱としています。各分野とも施設の複合的特性を生かした、他の施設では生み出せないオリジナルのプロダクション（制作）を重要視し、地方から世界へ「オリジナルソフト」の発信を積極的に行っています。その成果は、すでに数々の国際フェスティバルでの受賞をはじめ、国内外からの数多くの展示･公演の招聘依頼などによって評価と信頼を得ています。情報共有だけでなく、文化施設どうしのオリジナルソフトの交換から生まれる国際的信頼の蓄積は、YCAM=山口市に新たなブランド力を生んでいます。また、日本の新しい人材･発想を世界に紹介することにも寄与しています。

YCAMの事業を通じて、世界的な創造的才能（アーティストや情報技術関係者）が訪れる<場>を山口市に作りだすことで、有形･無形の文化的蓄積が可能になるばかりでなく、新しい形の地域還元も目に見える形になっています。例えば、アート作品で開発利用されたコンピュータプログラムやアプリケーションソフトが、ラボの活動を共有することで、別の分野の教育教材ソフトの開発に応用され、オリジナルの情報教育教材を生むケースなどです。これらは、ソフトウェアの提案だけでなく、ワークショップの形で施行するパッケージツールとしての現場普及の側面もフォローし、地元地域へのさまざまな形での情報技術･リテラシー教育を還元していく「THINK GLOBAL, ACT LOCAL」を現実的に成功させています。このような形で生み出されたYCAMオリジナルソフトは、地元だけでなく、国内の他の地域の教育関係施設からも高い関心を寄せられています。

2　事業の概況

山口情報芸術センターは、開館9年目を迎え、平成24年11月に入館者数700万人を越えました。

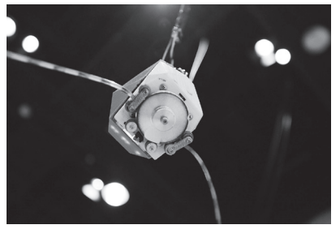
主な活動としては、YCAMがこれまで展開してきた教育普及活動とワークショップ制作を振り返りつつ新しいミュージアムエデュケーションの在り方を提案するYCAM教育普及展覧会「glitch GROUND」を開催。また、音楽家の渋谷慶一郎と演出家の岡田利規による人間の歌手もオーケストラも登場しないボーカロイドオペラ「THE END」の制作及び公演を行い国内外の注目を集めました。その他、高嶺格がプロデュースした山口在住で60歳以上限定の出演者が即興的に影絵を作り出すパフォーマンス「いかに考えないか?」を実施。今までYCAMに興味を持っていただけなかった新たな層を開拓する事業となりました。

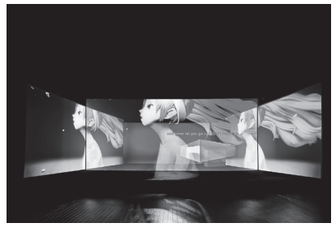
3　各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（人）
［1］アート	6	8,380
［2］パフォーミングアーツ	5	1,371
［3］教育普及	11	53,326
［4］ラボ	3	50
［5］シネマ	13	5,474
［6］10周年記念事業プレイベント	5	1,923
［7］貸館（件数）	30	4,864
合　計	73	75,388

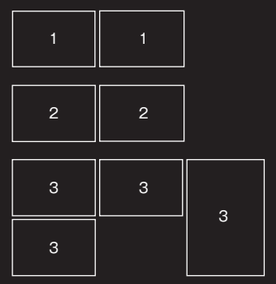
（備考）
①事業区分･事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧下さい。
②入場者数について
・ホワイエ、ギャラリー等の展示については実数把握ができないため、入場者数に加えていません。

ART





1 sound tectonics#11 「鈴木昭男 - 音と空間の探求」
2 scopic measure#14 Goh Uozumi「observer n」
3 渋谷慶一郎＋岡田利規 新作オペラ公演「THE END」



1 sound tectonics#11 「鈴木昭男-音と空間の探求」

開催日時:5月27日(日)14:00～
会場:スタジオA
入場者数:143名(入場料2,000円他)

メディアテクノロジーを軸に、サウンドと空間／映像の新たな関係を探求するコンサートシリーズ「sound tectonics」の第11弾。日本におけるサウンドアートの草分け的存在である鈴木昭男のパフォーマンスを中心に、近年鈴木とのコラボレーションを精力的に展開しているダンサーの宮北裕美との即興パフォーマンス、さらには鈴木のサウンドスケープを電子音響リミックスして再構築するevalaと原摩利彦によるパフォーマンスを発表。アーティストたちの研ぎ澄まされた音への感覚やアプローチを紹介した。

2 scopic measure#14 Goh Uozumi「observer n」

開催日時:8月25日(土)～10月28日(日)
会場:スタジオB
入場者数:3,374名(入場無料)

アートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトや、今後が期待される若手アーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズ「scopic measure」の第14弾。若手ながら第13回メディア芸術祭で奨励賞を受賞したアーティスト、Goh Uozumiのインスタレーション作品「observer n」を発表した。この作品は、別々の機能をもち、かつ自立的に動くシステム同士が情報をやり取りしあい、お互いに影響しあうことで、あたかも展示空間全体が1つの細胞となるようなある種のネットワークの総体をつくり出した。

3 渋谷慶一郎＋岡田利規 新作オペラ公演「THE END」

開催日時:12月1日(土)19:00～･2日(日)15:00～ 19:00～
会場:スタジオA
入場者数:753名（入場料3,000円他）

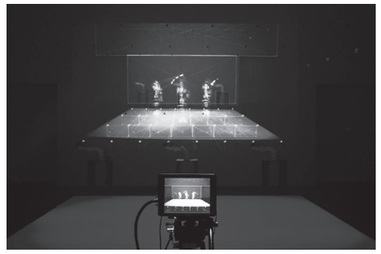
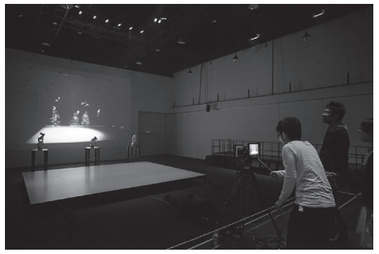
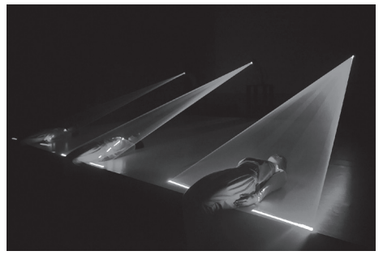
常に注目すべき活動を繰り広げている、音楽家の渋谷慶一郎と演出家の岡田利規による「終わり」をテーマにした初のコラボレーションを発表。人間の歌手もオーケストラも登場しない初音ミクによるボーカロイド･オペラという初の試みを行った。鑑賞者の半数程度は、県外からの来客であり、反響の高さが伺えた。また、当初2公演予定であったが、完売となり、追加公演の要望が高かったことから、1公演の追加公演を実施した。

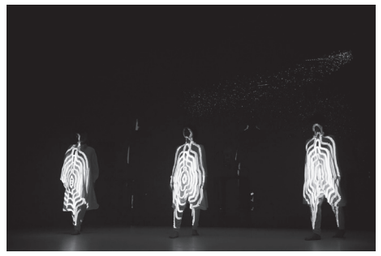
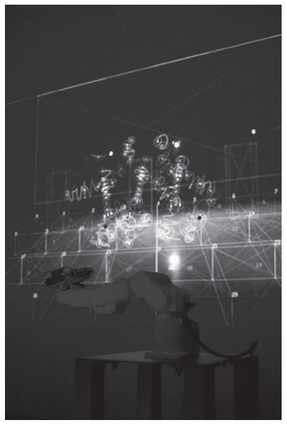
【関連】Making of「THE END」

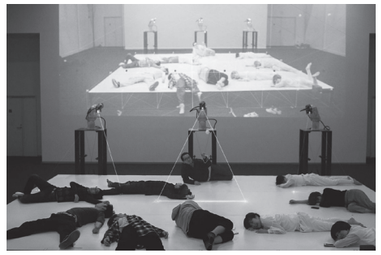
開催日時:11月10日(土)～1月7日(月)
会場:ホワイエ(入場無料)

渋谷慶一郎＋岡田利規新作オペラ公演「THE END」の関連展示。「THE END」の制作過程で、YKBXが描いた初音ミクのドローイングや絵コンテ、重松象平による舞台美術プランの資料を公開した。

ART



4 scopic measure#15 ライゾマティクス新作インスタレーション「pulse 3.0」

4 scopic measure#15 ライゾマティクス新作インスタレーション「pulse 3.0」

4 scopic measure#15 ライゾマティクス新作インスタレーション「pulse 3.0」

開催日時:1月27日(日)～3月24日(日)
会場:スタジオB
入場者数:3,795名(入場無料)

アートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトや、今後が期待される若手アーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズ「scopic measure」の第15弾。新しい表現形態で常に世界的に注目を集めるクリエイティブ集団「ライゾマティクス」の新作インスタレーションを発表。彼らがこれまでに手がけてきたレーザー光線／映像／音響／ロボティクスによるインスタレーションに大幅なアップデートを加えることで、表現の枠組みを押し広げる挑戦的な試みを行なった。

●sound tectonics#12

開催日時:1月26日(土)14:00～
会場:スタジオB
入場者数:176名(入場料500円)

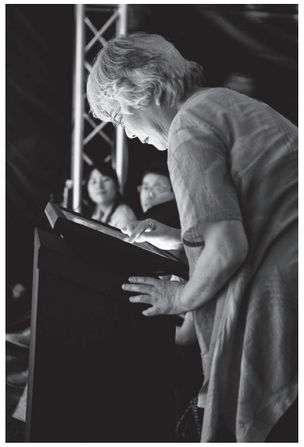
メディアテクノロジーを軸に、サウンドと空間／映像の新たな関係を探求するコンサートシリーズ「sound tectonics」の第12弾。ライゾマティクス新作インスタレーション「pulse 3.0」の展示空間内で、パフュームなどの振り付けで知られる振付家MIKIKO率いるダンスカンパニー「elevenplay」のダンスパフォーマンスや、サウンドアーティストTaeji Sawaiのライブパフォーマンス、音楽家AmetsubのDJセットを披露した。

●sound tectonics#13 「pulse live version」

開催日時:3月17日(日)14:00～
会場:スタジオB
入場者数:139名(入場料3,000円他)

好評を博したライブコンサート「sound tectonics #12」から「elevenplay」が出演するパートを中心にアップデートしたバージョンを披露。振付家MIKIKO、音楽はAmetsub、Nosaj Thing、Falty DLといった国内外の気鋭のミュージシャンが担当。ライゾマティクスとMIKIKOを中心に、このインスタレーションの中でしか実現できない身体表現の可能性を探り、新たな空間表現のあり方を提示するクオリティの高いライブパフォーマンスの発表となった。

PERFORMING ART



1
1
1
1

2
2
2
2
2

1　YCAM performance lounge#6　いかに考えないか？／ジャパン・シンドローム～山口編

2　ゴブ・スクワッド &CAMPO 「Before Your Eyes」

1　YCAM performance lounge#6　いかに考えないか?／ジャパン･シンドローム～山口編

現在生まれつつある新しい身体表現の魅力を伝えるシリーズ「performance lounge」。初めてYCAMに足を運ぶ人も、さまざまな楽しみ方を発見できる作品をセレクションし毎年春に開催している。第6弾となる今回は、美術家／演出家の高嶺格によるパフォーマンス作品「いかに考えないか?」と、映像作品「ジャパン･シンドローム～山口編」を発表した。

●パフォーマンス作品「いかに考えないか?」

開催日時:6月23日(土)･24日(日)･30日(土)･7月1日(日)15:00～18:00
会場:中央公園特設テント
入場者数:649名(入場料500円)

観客がタッチパネル式キーボードを通じて、スクリーンの向こう側にいるパフォーマーに指示を出し、その指示に応じてパフォーマーが即興的に影絵をつくり出すパフォーマンス作品。パフォーマーを務めるのは、山口市内在住の60歳以上の男女10数名。60歳以上の人々がパフォーマーを務めるというのは、高嶺が本作の構想初期から温めていたプランであり、名古屋（あいちトリエンナーレ／2010年）、クロアチア（クイア･ザグレブ／2012年）での発表を経て、山口で初めて実現したことになる。パフォーマーたちは、オルガン奏者の演奏が鳴り響く中、観客から送られる様々な指示―「じいさん」や「犬」などの影絵で表現しやすいものから、「ガンダム」や「黒人」などの無謀なものまで、力を合わせて必死に応え、観客を楽しませた。

●映像作品「ジャパン･シンドローム～山口編」

開催日時:6月23日(土)～7月1日(日)11:00～19:00（土日は14:00まで）
会場:中央公園特設テント
入場者数:350名(入場無料)

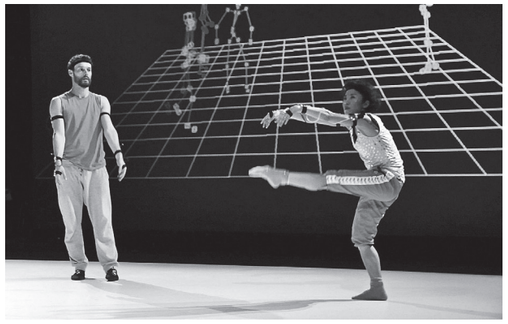
山口市在住のパフォーマーたちが、山口市内を中心に山口県内のさまざまな場所へ出かけて福島の原発事故の影響について取材し、そのやりとりの様子を演技で再現した映像作品。取材はごく一般的な商店や飲食店、路上で出会った地元の人々に対しておこなわれ、県内の40ヶ所以上で実施。このときの「取材」とは、いわゆるジャーナリストのインタビューのようなものではなく、あいさつなど日常的なやりとりから「どこ産の素材を使っていますか?」「検査はされてますか?」といった疑問を、客（消費者／生活者）が売り手に素朴に質問してみるというものである。最終的には14ヶ所のシーンを選び、現場で交わされた会話をセリフとして書き起こした後、取材をおこなったパフォーマー自身がそのやりとりを舞台上で再現した模様を映像作品としている。ノンフィクションとフィクション、そして、作品の出演者が聞き手でありながら、問いを突きつけられる当事者も演じる、という複数の二重性をはらむ本作を通じて、汚染や原発についての人々の複雑な反応や、人々に規範的な振る舞いをさせてしまう「空気」の存在、さらにはイデオロギーによって広がってしまった人間関係の断絶を浮かび上がらせた。

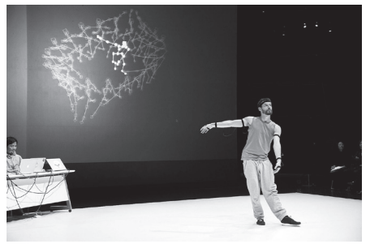
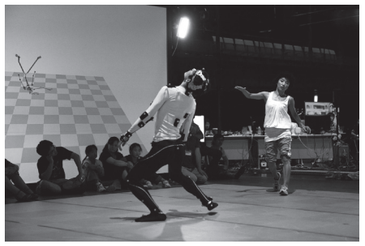
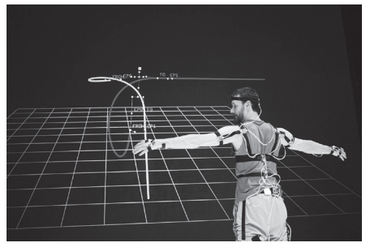
2　ゴブ･スクワッド&CAMPO「Before Your Very Eyes」

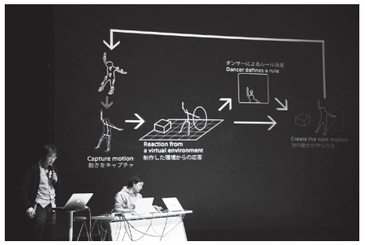
開催日時:11月2日(金)19:30～･3日(土)14:00～
会場:スタジオA
入場者数:259名(入場料2,500円他)

成長と老いをテーマに、子どもたちが猛スピードで思春期を経て成長し、老いて死を迎える内容。ゴブ･スクワッドは約3年にわたり当時7歳から12歳の子供と向き合い、彼らから実際の言葉やエピソードを引き出しながら創作を行った。カンパニーの得意とする映像とライブのパフォーマンスの組み合わせによって、子どもたちの中にさえ潜む老いのしるしを巧妙に表現し、人生の皮肉や悲哀に観客を直面させながらも、彼ら特有のポップなセンスで、人生という大騒ぎのおかしさをみせてくれた。

PERFORMING ART





3 YCAM InterLab+ 安藤洋子 共同研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」

3 YCAM InterLab+安藤洋子 共同研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」通年

2011年から2年間にかけて、ダンスとメディアテクノロジーの新たな可能性を模索することを目的に、ザ・フォーサイス・カンパニーの中心的ダンサーである安藤洋子と、日米で活躍するソフトウェア開発者たちとともに、ダンス創作と教育のためのツールを研究開発するプロジェクト「Reactor for Awareness in Motion（リアクター・フォー・アウェアネス・イン・モーション／略称:RAM）」を実施してきた。2年目にあたる今年度は開発現場の模様を公開するオープンスタジオ、最新の成果を発表するプレゼンテーション、2年間の研究成果を披露するワークショップを開催した。

●オープンスタジオ

開催日時:9月1日(土)・2日(日)14:00~15:30
会場:スタジオA
参加者数:39名(参加無料)

開発現場の模様を公開し、YCAMが開発中の最先端システムを体験してもらった。ゲームや映画などでも使われているモーションキャプチャーという技術をダンスに応用したシステムを体験してもらうことで、ダンスや自分の身体について新しい発見の場を提供した。

●プレゼンテーション

開催日時:2月23日(土)14:00~16:00
会場:スタジオA
参加者数:82名(参加料1,000円)

安藤洋子やYCAM InterLabを始めとする開発チームと、ゲストのシリル・バルディを講師に、プロジェクトの最新の成果を紹介するプレゼンテーションを開催。また、実際にザ・フォーサイス・カンパニースタジオに赴き、プレゼンテーションと成果のweb公開などを行い、市民をはじめ、世界中の方々が利用できるようにした。

1 YCAM教育普及展覧会 glitch GROUND-メディアアートセンターから提案する新しい学び場環境

開催日時:5月19日(土)〜8月12日(日)
会場:スタジオB·2Fギャラリー·ホワイエ
入場者数:52,680名(入場無料)

開館以来、オリジナルワークショップをはじめとする多様な教育普及プログラムを展開してきたYCAMの教育普及活動を俯瞰する展覧会。教育普及活動のコンセプトを体現した公園型のインスタレーションのほか、過去のプログラムを体系的に紹介するパネル展示、現在開発中のワークショップから派生したインスタレーションを発表した。
「メディア」が、光や大地や空気と同じように当然のこととして人々の生活を包み込んでいる今日の社会。「前提を見つめ直す」という意図から名付けられた本展の展示作品を通じて、ミュージアムエデュケーションやメディア教育の新たなビジョンを示すとともに、世界をたくましく生き抜く知恵と創造性を自発的に獲得する場という、公共施設の未来像を提起した。

●コロガル公園

会場:スタジオB

波打つ不安定な床面で構成された公園型のインスタレーション。
公園の床面の内部や周囲には映像や照明、音響、ネットワークなどのメディアテクノロジーの仕掛けが多数埋め込まれており、手足を使った身体的な遊びとメディア技術を使った遊びが同列に存在する環境を実現させた「未来の公園モデル」。利用者の創造性を刺激し、新しい「遊び」を誘発した。

●コトバ身体　インスタレーション

会場:2Fギャラリー

開発中のオリジナルワークショップ「コトバ身体」を元に制作したインスタレーション。
鑑賞者が作品空間内に設置されているモニターの前で自由に身体を動かすと、その動きがコンピューターに取り込まれていく。その動きと任意の「コトバ」を関連づけ、その「コトバ」を手がかりに他の動きに触れることで、身体を動かしたときには考えてもいなかった新たな意味を発見することができる。

●YCAMエデュケーションアーカイブス

会場:ホワイエ

YCAMがこれまでに展開してきた様々な教育普及プログラムを紹介するパネル+映像展示。
市民参加型長期プログラム「meet the artist」、特別上映会「映画を2回観る会」、ギャラリーツアーやバックステージツアーといった過去に実施した教育普及プログラムを、参加の度合い、得られる体験の濃度などから「作品を言語化する」「作品を知る」「創造的な活動に参加する」といったカテゴリに分類し、映像も交えながら体系的に紹介した。

○YCAM WORKSHOPS

開催日時:4月28日(土)〜30日(月)·5月3日(木)10:00〜12:00　13:30〜16:30
会場:スタジオA·ホワイエ
内容:バスタ建築、walking around surround、Search'n Search、ケータイ·スパイ·大作戦、テクタイル、コトバ身体、Eye2Eye、感覚アスレチック
レポーター:井島真知(林原自然科学博物館展示教育部エデュケーター)、森秀樹(大阪大学大学院人間科学研究科助教授)、池内一誠(九州国立博物館交流課主任研究員)、佐藤優香(博士(教育学))
参加者数:72名(参加料500円)

展覧会の開催に先立ち、YCAMが過去に開発した、あるいは現在開発中のオリジナルワークショップ計8点を開催した。
各ワークショップには全国のミュージアムエデュケーターや教育研究者をレポーターとして招聘し、終了後にはワークショップの開発と実施を担当するYCAM教育普及スタッフに対して、各ワークショップの背景やコンセプトについてのインタビューを実施。その模様は「YCAMエデュケーションアーカイブス」の一部として展示した。

○シンポジウム「ワークショップはどうやって創られるのか?」

開催日時:5月4日(金)14:00〜16:00
会場:ホワイエ
出演:池内一誠(九州国立博物館交流課主任研究員)、佐藤優香(博士(教育学))、YCAM教育普及スタッフ
入場者数:41名(入場無料)

ワークショップの設計方法についてのシンポジウムを、博物館でのワークショップや体験学習コーナーの設計や運営の経験が豊富な佐藤優香と池内一誠を招いて開催した。
美術館や博物館で実施されるワークショップの裏にはどのような背景があり、どのように創られているのか。ゲストの2人が携わってきたさまざまなワークショップや体験学習コーナーの事例を紹介しながら、それぞれの現場における課題やその解決方法について語り合った。

○オープニングレクチャー&デモンストレーション「これからのメディア教育環境」

開催日時:5月19日(土)14:00〜15:30
会場:スタジオB
出演:上田信行(同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授)
参加者数:34名(参加無料)

展覧会のオープニングを記念して、企業など多くの組織に体験型学習を提案している「ラーニング·アーティスト」の上田信行を招いて、ワークショップ形式のレクチャーを開催した。展示された「コロガル公園」において、参加者は数名ずつのチームに分かれ、参加者全員で歌ったり踊ったりしながら、所定の時間内に与えられたブロックをどれだけ高く積み上げることができるか、というゲームを実施。演劇や音楽ライブ、パーティーといった「人が楽しめる空間」に着目し、そのエッセンスをワークショップの設計に応用する上田の方法論を、パフォーマンス的なアプローチで提示した。

○子どもあそびばミーティング

開催日時:6月10日(日)·7月8日(日)·22日(日)14:00〜15:30
会場:スタジオB
出演:臼井隆志
参加者数:54名(参加無料)

東京の児童館で子どもたちとアーティストの協働を多数演出している臼井隆志をファシリテーターに招き、来場者の子どもたちが、YCAM InterLabのメンバーとともに、「コロガル公園」の新たな機能を検討するミーティングを3回に渡って開催した。
ミーティングの参加者には、会期中に回収された「子どもアイディアスケッチ」に記されている「理想の公園」を参照しながら、新たな機能についてのアイディアを検討してもらった。このプロセスに、YCAM InterLabが参加し、その経験やスキルを提供することで、半ば非現実的とも言える参加者のアイディアをブラッシュアップしていった。最終的に新機能として公園に実装されることになったアイディアは、各ミーティング開催後ただちにInterLabによる作業がおこなわれ、来場者の印象を一新させるこれまでにない「あそびば」の在り方を実現した。実装されたアイディアの総計は、3回のミーティングで10数個に上った。

教育普及

2　自主事業関連教育普及事業

●YCAM教育普及展覧会 glitch GROUNDギャラリーツアー

開催日時:5月20日(日)·6月2日(土)·3日(日)·9日(土)·16日(土)·17日(日)·7月7日(土)·21日(土)·8月4日(土)·5日(日)14:00～15:00
会場:スタジオB·2Fギャラリー·ホワイエ　(参加無料)

専門のスタッフとともに作品を体験し、鑑賞のポイントを発見し、ディスカッションするギャラリーツアーを週末を中心に開催した。(期間中全10回)

●Goh Uozumi新作インスタレーション展「observer n」ギャラリーツアー

開催日時:9月30日(日)·10月27日(土)14:00～15:00
会場:スタジオB　(参加無料)

Goh Uozumi新作インスタレーション展「observer n」に関連したギャラリーツアー。アーティスト自身が作品について説明。技術的な面も含め作品を深堀したツアーとなった。

●渋谷慶一郎+岡田利規　新作オペラ公演「THE END」ワークショップ

開催日時:11月24日(土)15:00～16:30
会場:ホワイエ
参加者数:20名(参加無料)

渋谷慶一郎+岡田利規新作オペラ公演「THE END」の教育普及イベント。アーティスト2人が、制作中の作品の発想やアプローチについてのプレゼンテーションをおこない、テーマについて参加者とディスカッションを実施した。

●YCAM InterLab+安藤洋子共同研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」ワークショップ

開催日時:2月23日(土)18:00～22:00、24日(日)10:00～17:00
会場:スタジオA
参加者数:31名(参加料2,000円)

安藤洋子やYCAM InterLabを始めとする開発チームと、ゲストのシリル·バルディを講師に、開発したツールを用いて創作をおこなうワークショップを開催した。2年間に渡る研究開発の締めくくりとして実施されたこのワークショップでは、ツールの使用法についてのレクチャーや技術面の詳細な解説をおこなった後、ダンサーとプログラマーとの間で相互理解を深めるユニークなエクササイズを挟みながら、グループでダンス作品の創作をおこなった。第一線で活躍するプログラマーとダンサーが一同に会するこのワークショップを通じて、ダンスとメディアテクノロジーの関係を促進し、新たな表現領域を開拓することができた。

3　YCAMオリジナルワークショップ

●映画を2回観る会

会場:スタジオC
参加者数:113名(参加無料)

Vol.1　作品:あなたは私の誇り
開催日時:10月20日(土)·21日(日)13:30～15:30
20日ゲスト:土居伸彰(アニメーション研究·評論)
【関連上映】メランコリックな宇宙　ドン·ハーツフェルト作品集
開催日時:10月26日(金)13:30～·19:00～、27日(土)·28日(日)13:30～·16:00～
入場者数:57名(入場料1,300円他)

Vol.2　作品:水の話
開催日時:11月17日(土)18:00～20:00、18日(日)13:30～15:30
17日ゲスト:樋口泰人(boid主宰·映画批評)
【関連上映】ふたりのヌーヴェルヴァーグ
開催日時:11月17日(土)16:00～、18日(日)11:30～·17:00～
入場者数:17名(入場料500円)

Vol.3　作品:ユキとニナ
開催日時:12月15日(土)·16日(日)13:30～15:30
15日ゲスト:諏訪敦彦(映画監督·東京造形大学学長)
【関連上映】ユキとニナ(全編)
開催日時:12月15日(土)·16日(日)11:00～·17:00～
入場者数:26名(入場料1,000円他)

映画作品の魅力をより深く楽しむための鑑賞法を発見することを目的としたこの鑑賞会は、ある1本の短編のアニメーションや実写映画を、ナビゲーターによる解説や参加者同士の感想共有を間に挟んで、2度鑑賞するというワークショップ形式のイベント。この一連の過程を通じて、作品が持つ多面性や重層性があらわになり、作品に対する見方がより柔軟で幅広いものへと変化していくと同時に、映画を観て感じたことを言葉にして共有する力、つまりは批評的な視点を養うことができるもの。昨年度に引き続いての開催となる今年度は、開催日を拡充し、開催する3シリーズすべてで、上映する映画に合わせた専門家もゲストとして招聘した。

4　創作環境

●学べて創れるメディア工房　tecpot(テックポット)

開催日時:7月14日(土)～16日(月)·28日(土)·29日(日)·8月11日(土)·12日(日)·25日(土)·26日(日)·9月8日(土)·9日(日)·22日(土)·23日(日)·10月13日(土)·14日(日)·27日(土)·28日(日)13:00～19:00
会場:2Fギャラリー
参加人数:293名(参加無料)

市民が主体的に「つくる+まなぶ+つながる」ことが出来るサードプレイス(自宅、学校や職場と違う第三の場所)として創作環境を提供。映像·音楽制作、プログラミング、電子工作、デザイン、ソフトウエア教育など6つのカリキュラムを実施し、常駐している教育普及スタッフやサポートスタッフが、利用者の興味や目的、創作内容にあわせて個々にサポートするため、初心者でも段階的に理解し技術の使い方だけに留まらずコンピューターを活用した創作活動、応用方法、メディア表現の魅力を発見することができた。

1　研究開発事業

●YCAM Guest Research Project vol.2

滞在期間:7月20日(金)〜10月20日(土)
ゲスト:ジェームス・ジョージ(アメリカ)

先端的なテーマをもつアーティスト／技術者を研究員として招聘し、YCAM InterLabと共同で研究開発をおこなう滞在研究プログラム。今回は、ニューヨークを拠点に、エンジニアそしてアーティストとして活躍するジェームス・ジョージを招聘し、3か月間にわたり共同研究を行った。研究開発された、センサーや音響など多種多様なインタラクションを時間軸上に容易に構成できるようにするツールは、YCAMだけでなく、東京においても出張ワークショップで発表するとともに、オープンソースかつ無料でインターネット上に公開した。

【関連展示】
開催日時:8月18日(土)〜11月25日(日)10:00〜19:00
会場:1Fギャラリー(入場無料)

●YCAM InterLab Camp vol.2　「TECHTILE(テクタイル)」集中ワークショップ

開催日時:3月9日(土)・10日(日)10:00〜17:00　※2日間通し
会場:スタジオA
参加者数:48名
(参加料30,000円他)

2011 年度から、「触感づくり(触感を積極的に取り込んだ表現)」のためのテクノロジー開発および表現コミュニティの形成を目的として、慶應義塾大学と共同で研究開発プロジェクト「TECHTILE(テクタイル)」を実施。このたび、2年間に及んだこのプロジェクトの1つの節目として、触感のプロトタイピングを容易に可能にする〈テクタイル・ツールキット〉 を中心に、実際に触感表現を体験し、議論する集中ワークショップを開催。2日間に渡って行った本イベントでは、創作のほかにも、ゲストによるレクチャーや、パネルディスカッションも実施。「触感」というキーワードについて探求するとともに、触感のつくり方や楽しみ方についてアート／サイエンス／テクノロジーなど様々な側面から議論を深めることができた。

2　研修生事業

滞在期間:6月15日(金)〜8月15日(水)
ゲスト:ヨハン・ディエドリック(アメリカ)

国内外から優秀な人材を研修生として受け入れ、実地研修を行う。今年度は、ニューヨークからサウンドアートを専攻している学生を受け入れ、2か月間にわたる実地研修を行った。

1　コミュニティシネマ山口

会場:スタジオC
入場者数:1,861名
(入場料1,300円他)

アキ・カウリスマキ「ル・アーヴルの靴みがき」
©Sputnik Oy photographer: Marja-Leena

上映作品
4月「女と銃と荒野の麺屋」「ピナ・バウシュ夢の教室」「今日と明日の間で」
5月「さすらいの女神(ディーバ)たち」
6月「ゴモラ」「エル・プリの秘密　世界一予約のとれないレストラン」「無言歌」「CUT」

【無言歌関連上映】
現代中国を代表する映画監督のひとり王兵作品「原油」「名前のない男」
開催日時:5月25日(金)〜6月24日(日)12:00〜19:00
会場:YCAM1F・2Fギャラリー(入場無料)

7月「ボエトリー　アグネスの詩」「明りを灯す人」
8月「預言者」
9月「断絶」「果てなき路」「生きてるものはいないのか」「テザ 慟哭の大地」
10月「ファウスト」「愛の残像」「灼熱の肌」
11月「ニーチェの馬」「はじまりの記憶　杉本博司」
12月「鬼に訊け　宮大工　西岡常一の遺言」「ヴィダル・サスーン」
1月
2月「カルロス」
3月「ライク・サムワン・イン・ラブ」「眠れぬ夜の仕事図鑑」「愛しきソナ」「かぞくのくに」
「グレートラビット」と世界のアニメーション傑作選(9作品)
　「エクスターナル・ワールド」「ハウス」「マダガスカル旅日記」「おなか」「ホリディ」「MODERN No2」「オー、ウィリー」「3月11日のかけら」「グレートラビット」
「グレートラビット」と和田淳全作品(14作品)
　「夢現」「このマヨネーズはゆるすぎる」「笛」「kiro no hito」「蠕虫舞手」「子供の廻転の事」「係」「鼻の日」「やさしい笛、鳥、石」「声が出てきた人」「そういう眼鏡」「わからないブタ」「春のしくみ」「グレートラビット」

2　Select CINE TECTONICS

映画を芸術作品として捉え、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史及びメディア史的視点から見て、意義のある映画作品を紹介するシリーズ。ドキュメンタリーも含んだ普段山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映する。

Select CINE TECTONICS=18
マルグリット・デュラス「インディアソング」

●Select CINE TECTONICS=17「ジョン・フォード監督特集」

開催日時:5月18日(金)〜20日(日)、5月25日(金)〜27日(日)
入場者数:197名(入場料1,000円他)

上映作品:「アイアン・ホース」「三悪人」「四人の息子」「ブリースト判事」「俺は善人だ」「周遊する蒸気船」「若き日のリンカーン」
西部劇で知られるアメリカ映画の巨匠、ジョン・フォード。ダイナミックかつ、詩情豊かな演出で知られるフォードの1920〜30年代の様々なジャンルの作品7本を上映した。

【関連】トークイベント
開催日時:5月26日(土)15:40〜
入場者数:80名(入場無料)
ゲスト:青山真治(映画作家・作家)、司会:阿部一直(YCAMキュレーター)

●Select CINE TECTONICS=18「マルグリット・デュラス監督特集」

開催日時:11月2日(金)〜4日(日)、11月9日(金)〜11日(日)
入場者数:144名(入場料1,000円他)

上映作品:「ナタリー・グランジェ(女の館)」「インディア・ソング」「ヴェネツィア時代の彼女の名前」「トラック」「セザレ」「陰画(ネガ)の手」「オーレリア・シュタイネル　メルボルン」「オーレリア・シュタイネル　ヴァンクーヴァー」「マグリット・デュラスのアガタ」
小説を出発点に「ヒロシマ・モナムール」などの映画脚本を手がけ、自ら映画監督として数多くの作品を発表したマルグリット・デュラス。「愛と死」をテーマに創作を続けたデュラスの長短編9作品を一挙上映した。

【関連】特別展示〈インディア・ソング+ヴェネツィア時代の彼女の名前〉インスタレーション
開催日時:11月2日(金)〜18日(日)10:00〜20:00
会場:スタジオB
同じサウンドトラックを使用している2作品を、向かい合わせのスクリーンで上映した。

3　特集上映

●ルキーノ・ヴィスコンティ監督特集

開催日時:4月6日(金)～8日(日)、4月13日(金)～15日(日)
入場者数:203名(入場料1,300円他)

上映作品:「若者のすべて」「ボッカチオ'70」「熊座の淡き星影」「ベニスに死す」「ヴィスコンティの肖像」
「ネオレアリズモ」から出発し、耽美的な作品を多く遺したルキーノ・ヴィスコンティの60年代から70年代の傑作を中心に、オムニバス参加作品やドキュメンタリーを上映した。

「さらば愛しき大地」
©プロダクション・群狼

●映画から原発とエネルギーについて考える

開催日時:5月3日(木)～6日(日)
入場者数:196名(入場料1,300円他)

上映作品:「プリピャチ」「イエロー・ケーキ　クリーンなエネルギーという嘘」「アンダー・コントロール」「第4の革命　エネルギー・デモクラシー」「friends after 3.11【劇場版】」
これまでエネルギー源として期待され推進されてきた原発の存在を再考する時期に来ていることから、この特集では原発やエネルギーをテーマとした5本の映画を上映。原発事故がもたらしたもの、原発に変わる新しいエネルギーの存在など「私たちのこれから」を映画から考える機会となった。

●ヴェルナー・ヘルツォーク監督特集

開催日時:7月13日(金)～16日(月)、7月20日(金)～22日(日)
入場者数:132名(入場料1,000円他)

上映作品:「小人の饗宴」「アギーレ/神の怒り」「カスパー・ハウザーの謎」「ノスフェラトゥ」「フィツカラルド」「コブラ・ヴェルデ　緑の蛇」「キンスキー、我が最愛の敵」「神に選ばれし無敵の男」「バッド・ルーテナント」
カルト的な人気を誇るドイツの巨匠ヴェルナー・ヘルツォークが手がけた1969年から2009年の9作品を一挙に上映。物議を醸した「小人の饗宴」から、ハリウッドスターのニコラス・ケイジを起用した「バッド・ルーテナント」まで、ヘルツォークの世界を堪能出来る機会となった。

●ラース・フォン・トリアー監督特集

開催日時:8月3日(金)～6日(月)
入場者数:128名(入場料1,300円他)

上映作品:「ドッグヴィル」「マンダレイ」「アンチクライスト」「メランコリア」
観る者の感情を揺さぶり続け、常に実験的な表現に挑むデンマークの映画作家ラース・フォン・トリアーの最新作「メランコリア」を含む近作を上映した。

●真利子哲也監督特集

開催日時:8月17日(金)～19日(日)
入場者数:81名(入場料1,300円他)

上映作品:「NINIFUNI」「極東のマンション」「マリコ三十騎」「イエローキッド」
数々の映画祭で高い評価を受ける気鋭の映画作家、真利子哲也。最新作「NINIFUNI」上映に併せ、初期短編作品、劇場長編デビュー作「イエローキッド」を上映した。

【関連】トークイベント
開催日時:8月18日(土)17:45～
入場者数:40名(入場無料)
ゲスト:真利子哲也監督

●文化庁優秀映画鑑賞推進事業　成瀬巳喜男監督特集

開催日時:9月14日(金)～17日(月)
入場者数:344名(入場料500円)

上映作品:「めし」「おかあさん」「浮雲」「乱れ雲」
文化庁優秀映画鑑賞推進事業は東京国立近代美術館フィルムセンターに所蔵されている貴重なフィルムの中からプログラムを編成し、毎日全国各地で巡回上映するもの。今年度は文芸映画、女性映画の第一人者と言われる名匠・成瀬巳喜男が手がけた4作品を上映した。

●アキ・カウリスマキ監督特集

開催日時:12月20日(木)～24日(月)
入場者数:248名(入場料1,300円他)

上映作品:「罪と罰」「真夜中の虹」「ラヴィ・ド・ボエーム」「白い花びら」「ル・アヴールの靴みがき」
フィンランドを代表する映画作家、アキ・カウリスマキ。カンヌ国際映画批評家協会賞を受賞した「ル・アヴールの靴みがき」の上映に併せて、長編デビュー作を含む5本を上映した。

●増村保造×柳町光男

開催日時:1月10日(木)～14日(月)、1月17日(木)～20日(日)、1月24日(木)～27日(日)、1月31日(木)～2月3日(日)
入場者数:592名(入場料800円他)

上映作品:増村保造監督「くちづけ」「青空娘」「巨人と玩具」「妻は告白する」「『女の小箱』より夫が見た」「刺青」「赤い天使」「痴人の愛」「遊び」「大地の子守歌」「曽根崎心中」
柳町光男監督「ゴッド・スピード・ユー!BLACK EMPEROR」「十九歳の地図」「さらば愛しき大地」「火まつり」「愛について、東京」「旅するパオジャンフー」「カミュなんて知らない」
大胆に捉えた人間ドラマが、それぞれの時代を超えた今でも多くの人々を魅了し続けてやまない映画作家、増村保造と柳町光男。飽くなき人間ドラマへの方法論の探求を実現し続けた2人の作品を特集上映した。

【関連】トークイベント「柳町光男、自作を語る」
開催日時:1月13日(日)15:20～
入場者数:40名(入場無料)
ゲスト:柳町光男(映画監督)
自身の作品を中心とした人間ドラマの演出について話す、柳町光男監督のトークイベントを実施した。

【関連】トークイベント「万田邦敏、増村保造を語る」
開催日時:1月20日(日)15:00～
入場者数:40名(入場無料)
ゲスト:万田邦敏(映画監督)
万田邦敏監督が選定した作品を中心に、増村作品の演出やその魅力について話すトークイベントを開催した。

●公開講座　木村栄文レトロスペクティブ

開催日時:2月7日(木)～10日(日)、2月15日(金)～17日(日)
入場者数:129名(入場料1,300円他)

上映作品:「飛べやオガチ」「いまは冬」「鉛の霧」「まっくら」「苦海浄土」「あいラブ優ちゃん」「記者ありき　六鼓・菊竹淳」「鳳仙花～近く遥かな歌声～」「むかし男ありけり」「絵描きと戦争」「桜吹雪のホームラン～証言・天才打者大下弘～」「記者それぞれの夏～紙面に映す日米戦争～」
文化庁芸術祭大賞やギャラクシー賞大賞などテレビ界の数々の賞を受賞し、2011年に逝去したRKB毎日放送のディレクター木村栄文のドキュメンタリーを上映した。

4　真夏の夜の星空上映会

開催日時:8月10日(金)～12日(日)19:30～
会場:中央公園(12日雨天のためスタジオA)
入場者数:900名(入場無料)

上映作品:「理由なき反抗」「真夏の夜の夢」「AKIRA」
YCAMの夏の恒例行事となった「真夏の夜の星空上映会」。屋内で鑑賞するのとは一味違い、中央公園の芝生にゆったりと腰を掛けて家族で映画を楽しめる機会となった。

「AKIRA」
©1988マッシュルーム／アキラ 製作委員会

5　design travel 山口号　出版記念イベント関連上映

開催日時:2月11日(月)
入場者数:64名(入場料500円)

上映作品:「集金旅行」
集金目当てに旅を始めた二人の男女の珍道中を、ユーモアを盛り込みながら描いたコメディ。岩国、山口、萩などでロケが行われた本作は当時の県内各地の様子や世相を知ることができるアーカイブとしての側面もある。

[6]　10周年記念事業プレイベント

1　「2050年を想像する音楽-ドビュッシーとケージからの発想」

開催日時:8月1日(水)19:00～
会場:スタジオA
出演:坂本龍一　他
入場者数:452名(入場料3,500円他)

【関連】walking around surround ワークショップ

開催日時:7月31日(火)
会場:大殿小学校体育館
参加者数:9名(参加無料)

2　「Ryuichi Sakamoto Trio Tour 2012 Japan&Korea」山口公演

開催日時:12月21日(金)20:00～
会場:スタジオA
出演:坂本龍一(ピアノ)、ジャケス・モレレンバウム(チェロ)、ジュディ・カン(ヴァイオリン)
入場者数:411名(入場料8,400円他)

3　アウトリーチワークショップ

開催日時:6月19日(火)～1月11日(金)の内15日間、5月5日(土)、8月4日(土)・5日(日)、10月6日(土)・7日(日)
会場:市内小学校12校、市内まつり3か所
参加者数:1,051名

メディアに対して主体的に読み解き、活用していく能力を向上させる「メディア教育」の普及を目指し、10周年記念祭のプレイベントとして、実際に各小学校やお祭り等に出向き、出張ワークショップを開催した。

[7]　主な貸館事業

●新山口駅ターミナルパーク整備　表口駅前広場デザインフォーラム

(主催)山口市
開催日時:11月18日(日)14:00～16:30
会場:ホワイエ

●現代アート界のスイーツ王子「渡辺おさむ的　侘び寂びの世界～karesansui枯山水～」

(主催)山口市
開催日時:12月7日(金)～13日(木)10:00～19:00
会場:スタジオB

●亀渕友香LIVE4 with Athena[アテナ]

(主催)日本のクリスマスは山口から実行委員会
開催日時:12月7日(金)19:00～
会場:スタジオA

●和合亮一トークライブ「“ことば”を通して福島と向き合う」

(主催)中原中也記念館
開催日時:1月19日(土)13:30～
会場:スタジオA

●シンポジウム「山口盆地考　環境とアート」

(主催)NPO法人　山口現代藝術研究所[YICA]
開催日時:2月28日(木)18:30～20:30
会場:スタジオC

[8]　施設利用状況

1　入館者数

月別内訳(人)

4月	54,119	10月	63,515
5月	60,457	11月	58,712
6月	65,827	12月	52,618
7月	69,649	1月	50,804
8月	74,839	2月	60,782
9月	58,898	3月	53,772
合　計	723,992		

2　見学・視察者数

月別内訳(人)

4月	39	10月	174
5月	45	11月	0
6月	76	12月	65
7月	51	1月	120
8月	38	2月	42
9月	140	3月	13
合　計	803		

3　施設使用状況

施設	開館日数	使用日数	使用率(%)
スタジオA	308	165	53.6
スタジオB	308	274	89.0
スタジオC	308	205	66.6
創作学習室	308	118	38.3
多目的室	308	154	50.0

[9]　その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容:例年通り、プロジェクト毎の映像編集を実施した。Webや新たに設置したインフォメーションコーナーにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めた。

2　実習生受け入れ状況

●博物館実習(4名)
期間:8月23日～9月2日
内容:教育普及ワークショップ運営等

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

[アート部門]

三上晴子「Desire of Codes｜欲望のコード」

2010年に山口情報芸術センター[YCAM]にて委嘱制作し公開された。
2010年3月20日-2010年6月6日 YCAM
2010年7月31日-9月5日 "TRUST"（Dortmund U/ドルトムント/ドイツ）
2010年8月5日-9月20日 "SPACE INVENTIONS"（Kunstlerhaus/ウィーン/オーストリア）
2011年10月22日-12月18日 ICC（初台/東京）
2012年8月27日-9月30日 Ars Electronica 2012(LENTOS Kunstmuseum/リンツ/オーストリア)
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）

三上晴子+市川創太「gravicells−重力と抵抗」改訂版

2004年5月のYCAMでの滞在制作・初公開以来、東京、ベルリン、トリノをはじめ世界8カ国／12ヵ所を巡回し、メディアアートの代表的な作品のひとつとして、高い評価を得ている「gravicells−重力と抵抗」をアップデートし、作品空間をよりダイナミックに使った新バージョンとして2010年に当館にて公開。その後、中国、韓国を巡回し再展示された。
2010年1月24日-5月9日　YCAM
2011年7月26日-8月21日「Translife - Media Art China 2011」（中国美術館/北京/中国）
2012年9月5日-11月18日 Project Daejeon 2012(Daejeon Museum of Art/テジョン/韓国)

三上晴子「Eye-Tracking Informatics−視線のモルフォロジー」

2人の体験者が、3次元空間内に可視化された自身の視線の動きを通じて、コミュニケーションや空間内のナビゲーションをおこなっていくという三上の90年代の代表作のひとつを最新の技術動向を反映し、YCAMで再制作したもの。
2011年12月4日-2012年3月25日 YCAM
2011年12月9日-12月18日 ICC（初台/東京）
2012年9月11日-11月4日 Media City Seoul 2012（Seoul Museum of Art/ソウル/韓国）
2012年11月15日-12月15日 Maribor 2012 European Capital of Culture(Multimedia centre KIBLA.MMC.KIBLA/マリボル/スロベニア)

「大友良英 / ENSEMBLES/without records」[改訂新作]

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品の内、「without records」[改訂新作]について巡回している。
2008年7月5日-10月13日　YCAM
2010年11月30日-2011年1月16日　大友良英「アンサンブルズ2010 - 共振」（水戸芸術館／水戸／茨城）
2012年3月9日-7月1日（ナム・ジュン・パイク・アートセンター／龍仁／韓国）
2012年10月27日-2013年2月3日 東京アートミーティング第3回「アートと音楽」（東京都現代美術館/東京）

newClear+アレッシオ・シルヴェストリン「skinslides」

ダンサーを永久保存するインターフェイスとして考案されたインタラクティブインスタレーション。サウンドを大友良英が手掛け、YCAM InterLabが技術協力を行った。
2009年4月25日-8月31日 YCAM
2011年7月20日-9月20日「NJP Summer festval "21 Rooms"」（ナム・ジュン・パイク・アートセンター／龍仁／韓国）
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）

[パフォーミングアーツ部門]

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

2011年2月19日-20日　YCAM
2011年3月10日-12日 EXIT-Festival（クレテイユ／フランス）
2011年3月31日-4月1日 VIA Festival（モブージュ／フランス）
2011年6月9日 ARTROCK Festival（サン・ブリュー／フランス）
2011年7月9日-10日 Julidans（アムステルダム／オランダ）
2011年8月25日-27日 Noorderzon Performing Arts Festival（フローニンゲン／オランダ）
2012年4月19日-21日 Usine C-Festival Temps d'Images（/カナダ）
2012年4月29日 Belrut International Platform of Dance(/レバノン)
2012年5月2日 Ramallah Contemporary Dance Festival(/パレスチナ)
2012年5月8日 Cultuurcentrum Hasselt(/ベルギー)
2012年9月25日-27日 La Blennale de la Danse/Theatre de la Renalssance(/フランス)

高嶺格　映像作品「ジャパン・シンドローム〜山口編」

2012年6月23日-7月1日　YCAM
2012年9月22日-11月24日 釜山ビエンナーレ（Busan Museum of Art/プサン/韓国）
2012年12月22日-2013年2月17日（水戸美術館/茨城）

[教育普及部門]

SADI（Samsung Art & Design Institute）ワークショップ招聘

SADIは、サムスン電子が設立し、パーソンズ美術学校（USA）のカリキュラムを導入しているデザイン専門学校で、プロダクトデザイン、ファッションデザイン、グラフィックデザインなどのコースがあり、今回のワークショップ招聘は専門分化する前の基礎講座の中で発想方法などを刺激する目的であった。
2012年7月3-6日（ソウル／韓国）

Media City Seoul2012 ワークショップ招聘

テクノロジーが躍進する都市ソウルのイメージを打ち出していくことを目的に、2年に一度開催される国際的なメディアアートの祭典。総勢50組のアーティストが参加し、ソウル市立美術館、DMCギャラリー(digital media city gallery)をメイン会場に作品が紹介される中、ソウル市立美術館にて「walking around surround」を小学校2年生から3年生を対象に実施した。
2012年9月16日（ソウル／韓国）

キッズワークショップカーニバルinいしのまき ワークショップ招聘

オリジナルワークショップシリーズがキッズデザイン賞2012の最優秀賞　経済産業大臣賞を授与したことから、同協議会が東日本大震災の被災地（石巻）で子ども向けイベントを開催するにあたり受賞ワークショップのひとつ「感覚アスレチック」が招聘され、石巻市で実施した。
2012年9月3-4日（石巻市立大街道小学校体育館／宮城）

キッズワークショップカーニバルinふくしま ワークショップ招聘

2013年3月9-10日（福島市子どもの夢を育む施設こむこむ／福島）

■受賞歴
YCAMオリジナルワークショップ
キッズデザイン賞2012　最優秀賞　経済産業大臣賞

平成24年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
http://www.ycam.jp

［発行］平成25年9月

公益財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
http://www.ycfcp.or.jp/